

# [AWS BlackBelt Online Seminar] AWS SaaS Boost で始める SaaS 開発入門

櫻谷 広人 Amazon Web Services Japan G.K. Partner Solutions Architect 2022/2/8





#### AWS Black Belt Online Seminar とは

- 「サービス別」「ソリューション別」「業種別」のそれぞれの テーマに分け、アマゾン ウェブ サービス ジャパン合同会社が 主催するオンラインセミナーシリーズです
- AWS の技術担当者が、AWS の各サービスについてテーマごとに 動画を公開します
- お好きな時間、お好きな場所でご受講いただける オンデマンド形式です
- 動画を一時停止・スキップすることで、興味がある分野・項目だけの聴講も 可能、スキマ時間の学習にもお役立ていただけます



#### 内容についての注意点

- 本資料では2022年2月時点のサービス内容および価格についてご説明しています。最新の情報は AWS 公式ウェブサイト(<a href="http://aws.amazon.com">http://aws.amazon.com</a>) にてご確認ください。
- 資料作成には十分注意しておりますが、資料内の価格と AWS 公式ウェブサイト記載の価格に 相違があった場合、AWS 公式ウェブサイトの価格を優先とさせていただきます。
- 価格は税抜表記となっています。日本居住者のお客様には別途消費税をご請求させていただきます。
- AWS does not offer binding price quotes. AWS pricing is publicly available and is subject to change in accordance with the AWS Customer Agreement available at http://aws.amazon.com/agreement/. Any pricing information included in this document is provided only as an estimate of usage charges for AWS services based on certain information that you have provided. Monthly charges will be based on your actual use of AWS services, and may vary from the estimates provided.

## 自己紹介

#### 櫻谷広人(さくらやひろと)

▶ 所属/ロール アマゾン ウェブ サービス ジャパン 合同会社 SaaS Partner Solutions Architect

#### > 経歴

主にバックエンドエンジニアとして Web サービス、ネイティブアプリの開発を経験 SIer → フリーランス → スタートアップ → AWS

得意領域サーバーレス、マイクロサービスアーキテクチャ



## アジェンダ

- o AWS SaaS Boost とは
- ユースケース / SaaS Boost が解決する課題
- 使い方 / アーキテクチャ構成
- その他の機能
- まとめ

#### 本ウェビナーの対象者

- AWS SaaS Boost について詳しく知りたい方
- これから AWS で SaaS を開発しようと考えている方

各種 AWS サービスの説明や仕様については、

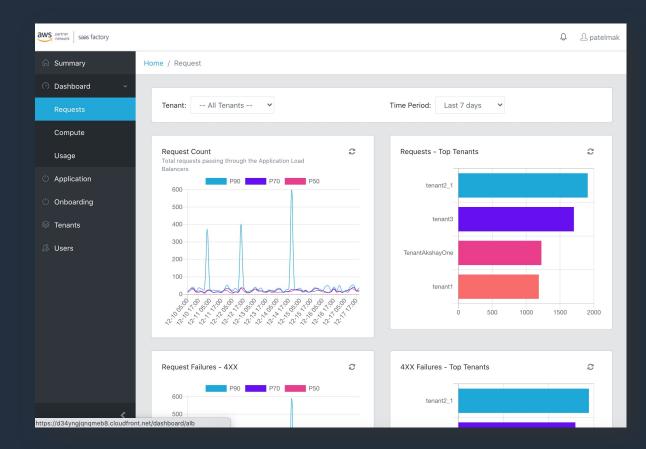
サービスカットの AWS Black Belt Online Seminar シリーズの動画をご覧ください

# AWS SaaS Boost とは



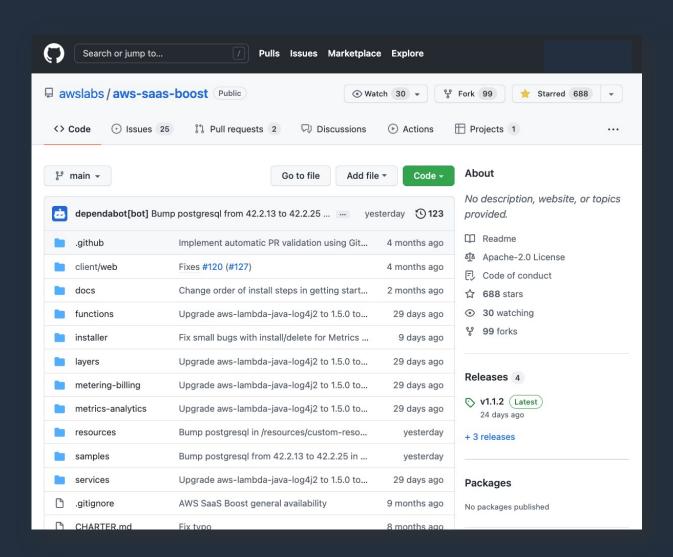
#### AWS SaaS Boost とは?

- ISV が持つ既存のモノリス Web アプリケーションを 迅速に SaaS 提供モデルへ移行し、ビジネスの立ち上げ を支援する、すぐに利用可能なオープンソースの リファレンス実装
- アプリケーションの変更を最小限に抑え、SaaS 製品の立ち上げに必要な基本的な要素を提供することで、付加価値を生まない重い作業を削減することができる
- インストーラー、アプリケーション設定、 オンボーディング用のシンプルな UI 、テナント管理、 分析とメトリクスのダッシュボード、ビリング、 メータリング、テナント分離、自動アップグレード機能 などが含まれる



#### オープンソースとして提供

- o awslabs/aws-saas-boost にて公開
- ライセンスは Apache 2.0
- 2022/2/8 時点で v1.1.2
- 誰でもコントリビューション可能



## AWS のサービスではなく、リファレンス実装

#### リポジトリに含まれるもの



## AWS のサービスではなく、リファレンス実装

#### リポジトリに含まれるもの



インストーラー













#### リファレンス実装であることのメリット

- 自社の環境に合わせた柔軟なカスタマイズが可能 デフォルトの実装はベースラインとして考える
- o オープンソースコミュニティ主導の開発 今後のロードマップの可視化/Feature request
- SaaS のベストプラクティスを学べるSaaS Boost を導入せずに自前で作る場合でも実装を参考にできる

## SaaS Boost がもたらす価値



#### SaaS 提供を加速する

すぐに利用可能な SaaS にとって欠かせないコンポーネントと、開発と実験のサイクルを短縮するのに役立つガイダンスによって、よくある落とし穴を回避し、開発と運用を簡素化します。



#### コアバリューに 注力する

SaaS ソリューションの構築の 複雑さを軽減して、ソフト ウェア開発チームを、より顧 客のためのイノベーションと 俊敏性を最大化する仕事に集 中させることができます。



#### 拡張性を持って スケールする

この環境は、スケールメリットの 実現と、自身の SaaS ソリュー ションに合わせてカスタマイズで きる柔軟性を備えています。拡張 性と、より簡単な製品統合を提供 し、意思決定に縛られることがな いようにします。

# ユースケース / SaaS Boost が解決する課題



# Why SaaS?



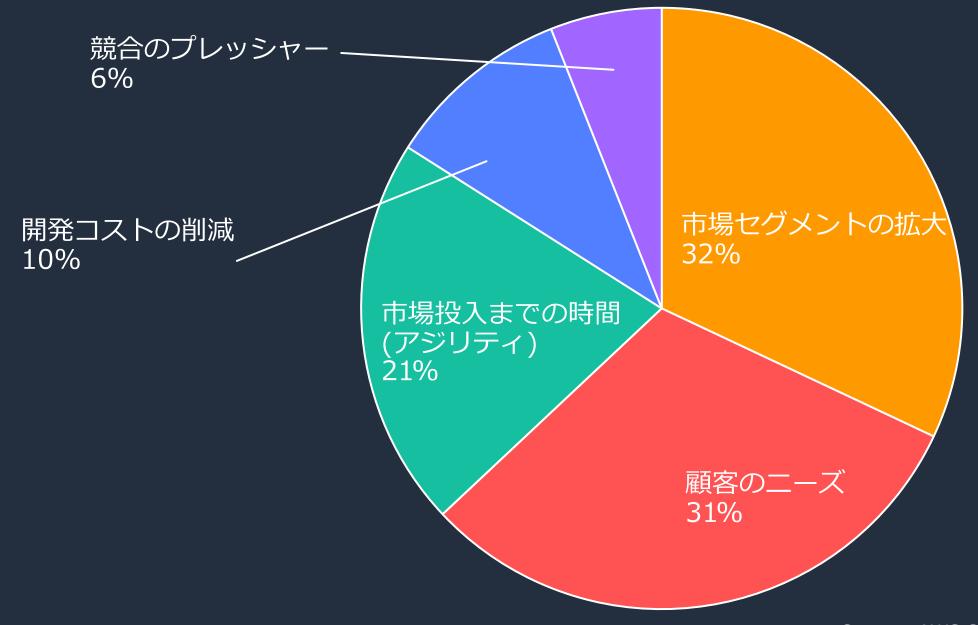
#### よくある回答

- お客さんが SaaS を使いたがっている
- SaaS を提供している競合他社に対抗するため
- 新しい市場の開拓
- 。 コストを削減したい
- もっと頻繁にプロダクトをアップデートしたい
- (社長がやりたいと言っているから…)

などなど



## SaaS を検討するモチベーション





#### どのように SaaS 化を目指すか?

既存製品の移行

早く市場へ投入

新規開発

競合他社の SaaS に シェアを奪われているので 速く SaaS 化しなきゃ…!

SurvivorTech



UnicornExpress.com



資金調達のプレッシャーもあるし とにかくまず MVP を出して 徐々に改善していこう

> 新規顧客向けの 新しい SaaS ソリューション

既存顧客向けの既存製品の移行

ToeDipper Software



New Horizons Software



全く新しい市場なので TAM や収益性をじっくり 分析してから動き始めよう

aws

© 2022, Amazon Web Services, Inc. or its Affiliates.

パッケージで売り上げは立っ ているので既存顧客に影響が ないように慎重に移行したい

18







- 市場変化に追従できる?
- 競合の動きを止められる?
- 完成した製品はユーザーのニーズを捉えている?
- 採算は取れる?

etc.







#### AWS SaaS Boost による移行パス



#### なぜ AWS SaaS Boost を使うと速く作れるのか?

オンボーディング アイデンティティ トリクス/分析 SaaS アプリケーション 運用監視

SaaS リファレンスアーキテクチャ

テナント分離

#### なぜ AWS SaaS Boost を使うと速く作れるのか?

オンボーディング

アイデンティティ

イノロイ運用監視

SaaS アプリケーション

デナント1

デナント分離

メトリクス/分析

ドリング/メータリング

実装済みの SaaS 提供に必要なコンポーネントを提供 ベストプラクティスに従ったセキュアでスケーラブルな構成

#### 実装済みの各種機能を利用可能

#### <u>アイデンティティ</u>

- Admin ユーザーの管理
- API 呼び出しの認可
- テナント管理



#### 運用監視

- ヘルスチェック
- オートスケーリング



#### オンボーディング

- 管理者ユーザーの発行
- パスワード通知
- 新規テナント環境のプロビジョニング







AWS CloudFormation

803

Amazon

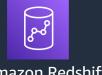
#### メトリクス/分析

- 各種メトリクスの収集
- テナントごとの利用傾向の分析
- 可視化









Amazon Redshift

#### デプロイ

- 全環境への一括バージョンアップ
  - EventBridge
- CI/CD パイプラインによる作業の自動化



**AWS** CodePipeline

Stripe との課金連携

ビリング/メータリング

使用量の計測



Amazon EventBridge



DynamoDB

Stripe



#### 複数テナントを専用の環境に分離しつつ一元管理



- 運用監視
- 設定
- ・デプロイ



- 運用監視
- 設定
- ・デプロイ



- 運用監視
- 設定
- ・デプロイ

SaaS Boost 環境 オンボーディング アイデンティティ v1.5トリクス/分析 ププロイ 運用監視 100 00 ボンング/メ テナント2 テナント1 テナント3 専用環境 専用環境 専用環境

顧客ごとに別々のバージョンが稼働 運用管理の負担が高いMSP的モデル

単一のバージョンへの標準化+共通処理の共有によって 運用管理の手間が少ないスケーラブルなモデル



# 使い方 / アーキテクチャ構成



## セットアップに必要なもの

- o AWS アカウント
- SaaS Boost のインストールに必要な権限を持った IAM
- SaaS 提供したいアプリケーションのコンテナイメージ(※複数コンテナは未対応)

#### その他必要に応じて

- > ドメイン
- QuickSight アカウント
- Stripe アカウント



## セットアップのフロー



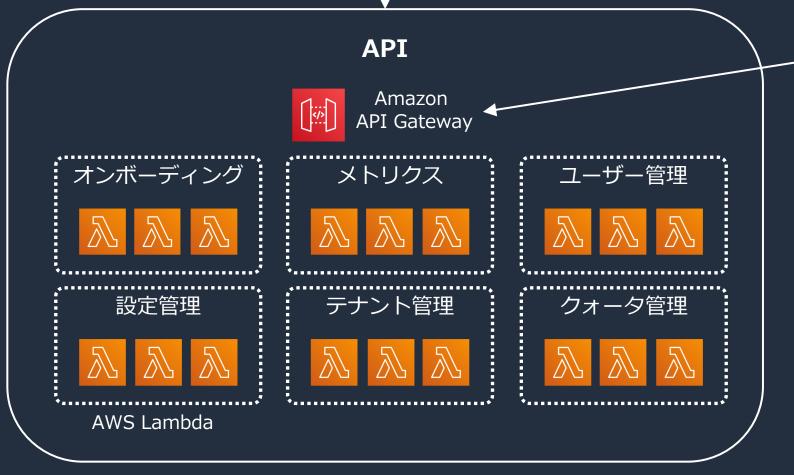
#### SaaS Boost 環境のアーキテクチャ構成

Amazon Amazon CloudFront S3





管理者用アプリケーション (SPA)







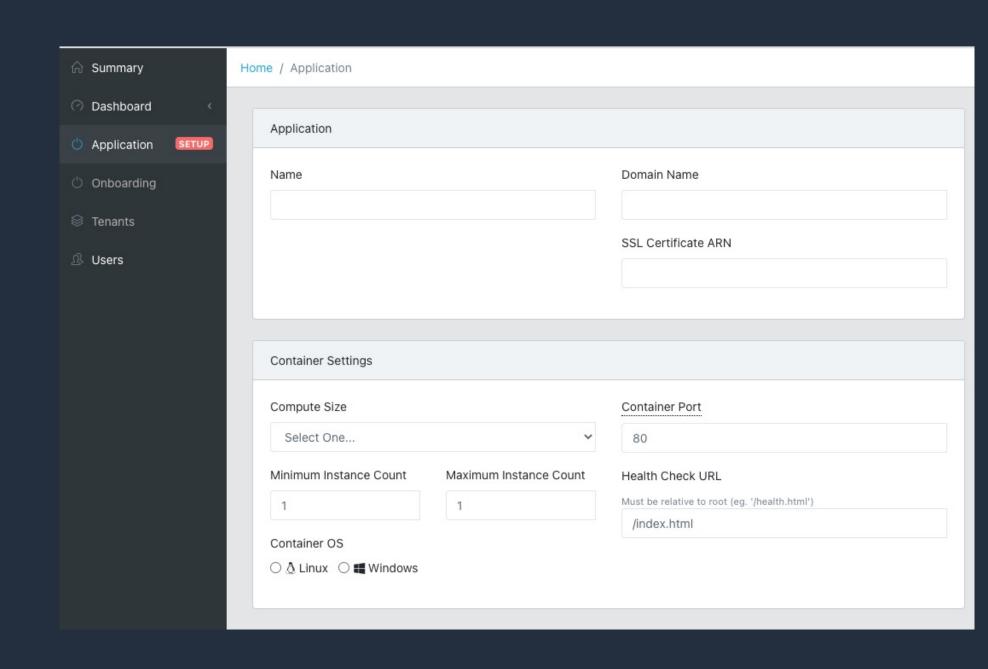


## セットアップのフロー



#### アプリケーションの構成情報の設定

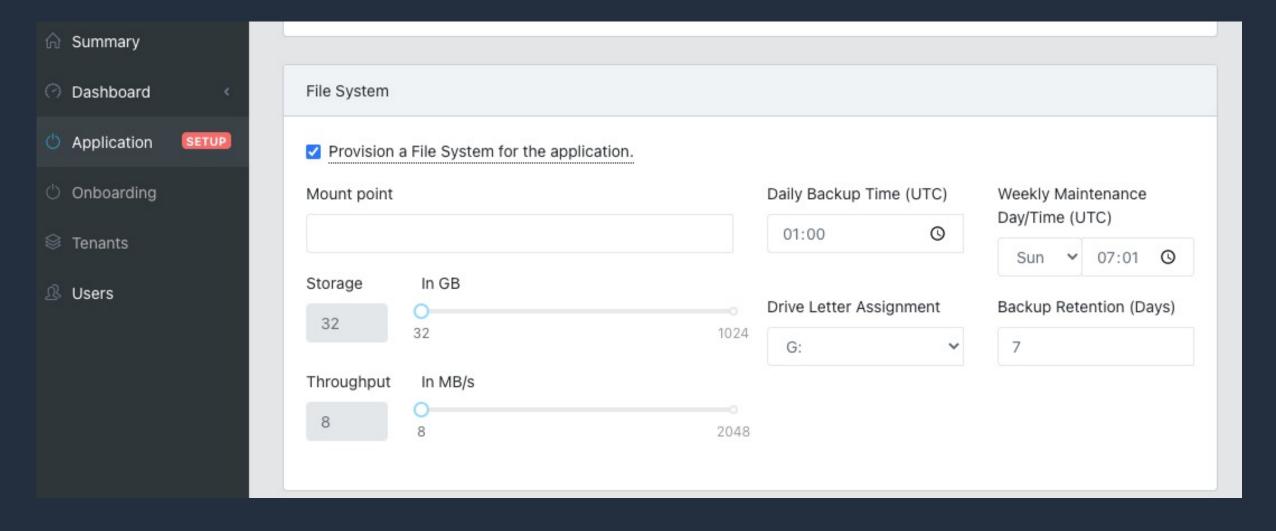
- カスタムドメイン
- SSL 証明書
- コンピューティングリソース
- o オートスケーリング
- o OS
- o ポート
- o ヘルスチェック
- ファイルシステム
- データベース
- o 課金 (Stripe)





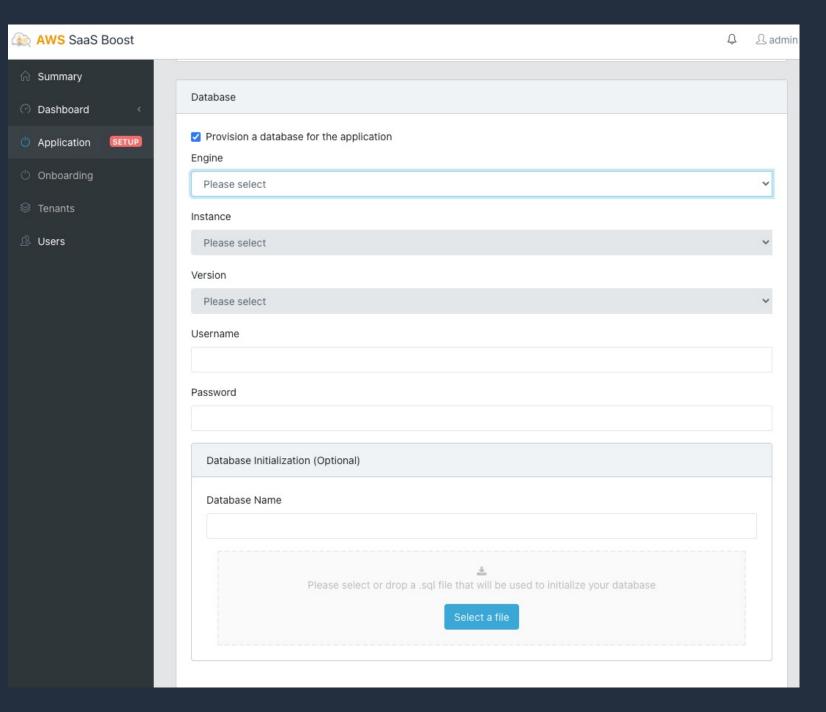
## ファイルシステムの設定(optional)

選択した OS に合わせて Amazon Elastic File System (Amazon EFS) または Amazon FSx for Windows File Server がテナントごとに専用リソースとしてプロビジョニングされる



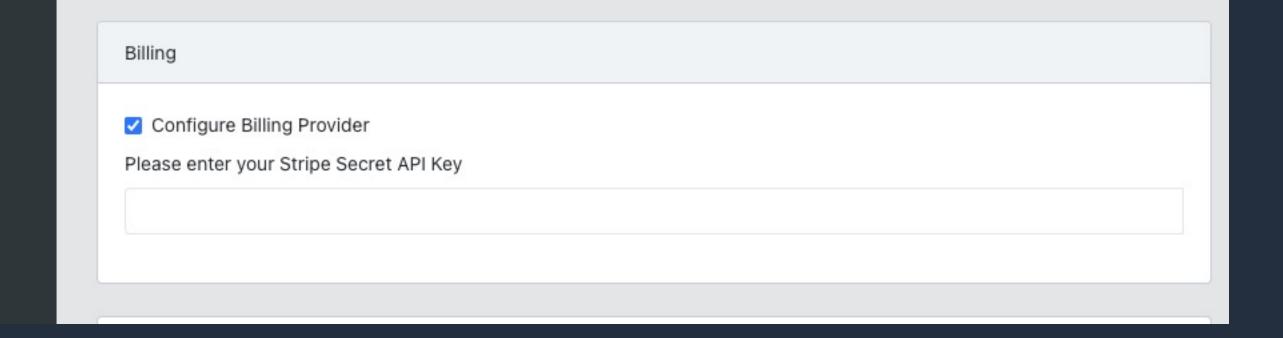
## データベースの設定(optional)

- o Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) がテナントごとに専用 リソースとしてプロビジョニングされる
- 多くのエンジンが利用可能 (Amazon Aurora, MySQL, PostgreSQL, MariaDB, SQL Server)
- 。 データベース初期化時に実行したい SQL ファイルを添付することもできる



## 課金連携の設定(optional)

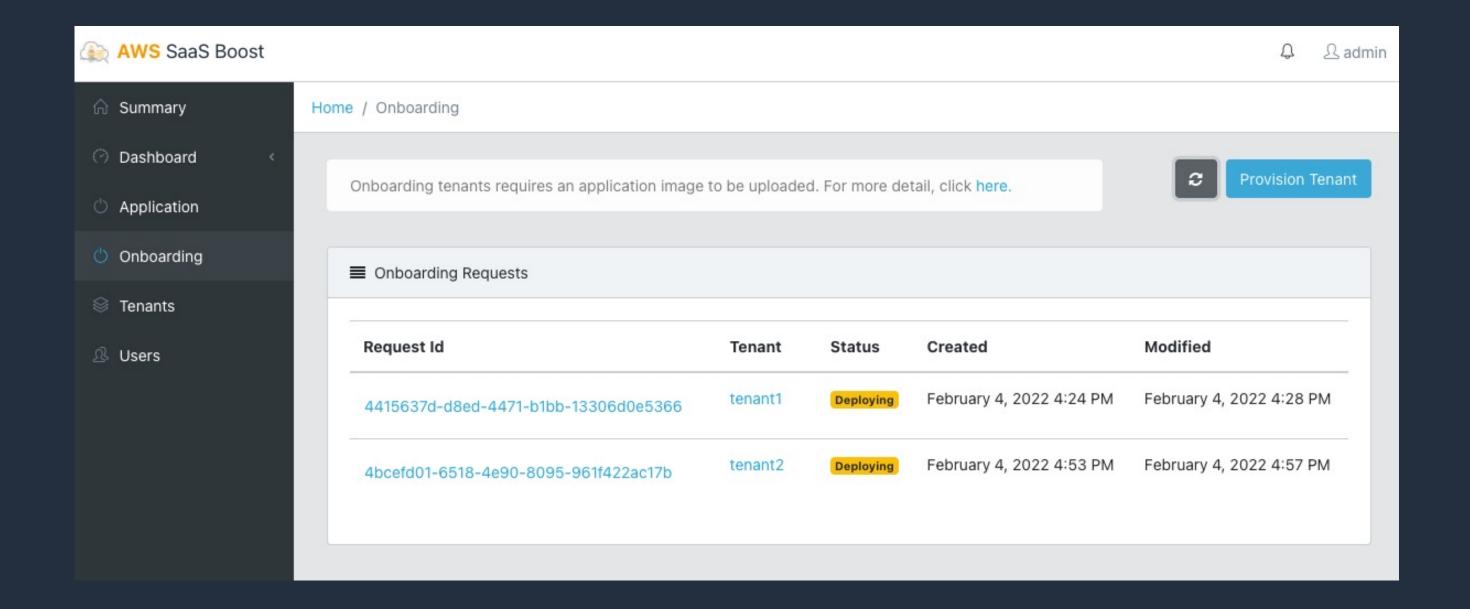
- 事前に Stripe アカウントを作成し、発行された API キーを貼り付ける
- o 課金体系はコードをカスタマイズして設定



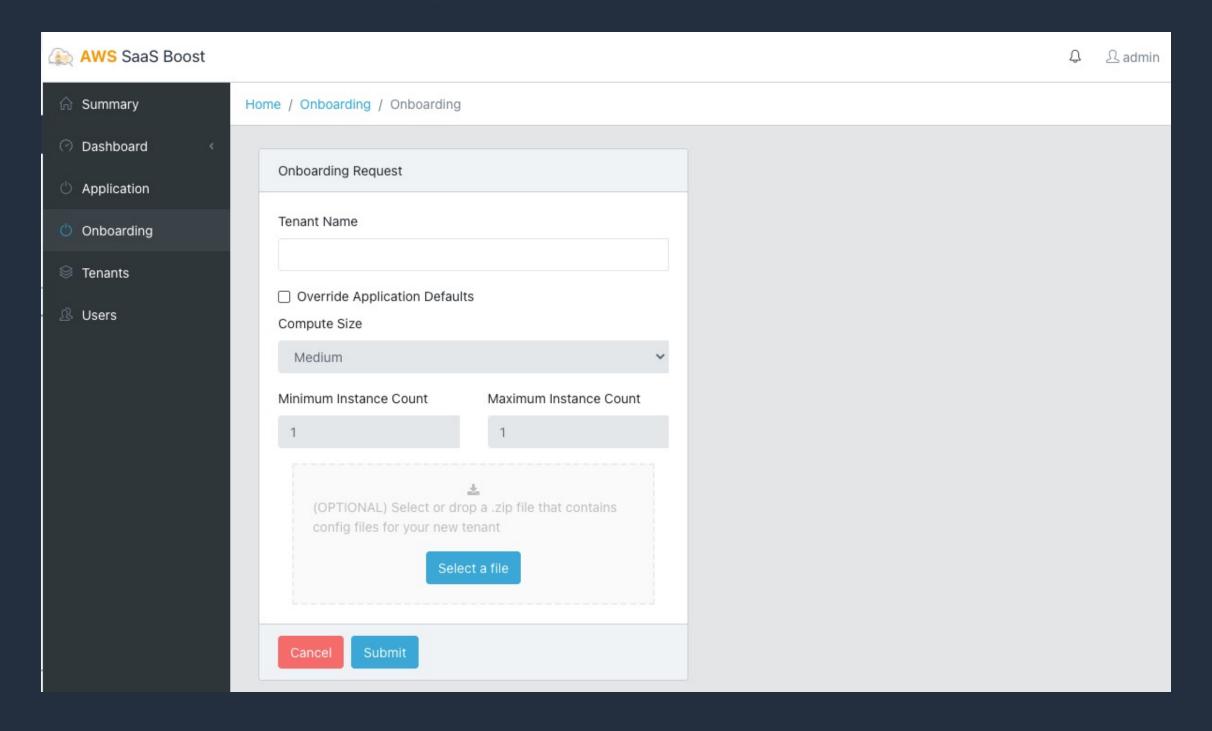
#### セットアップのフロー



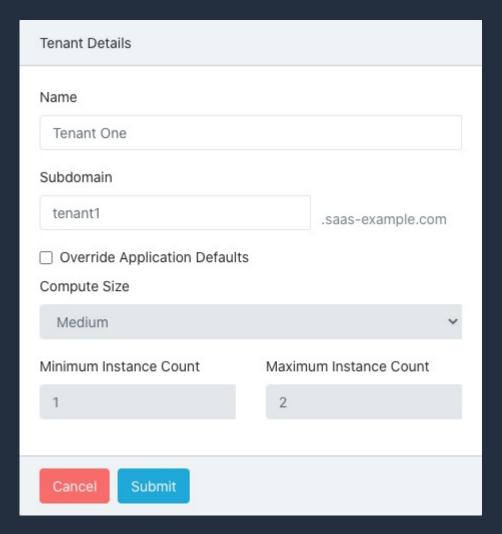
#### テナントのオンボーディング



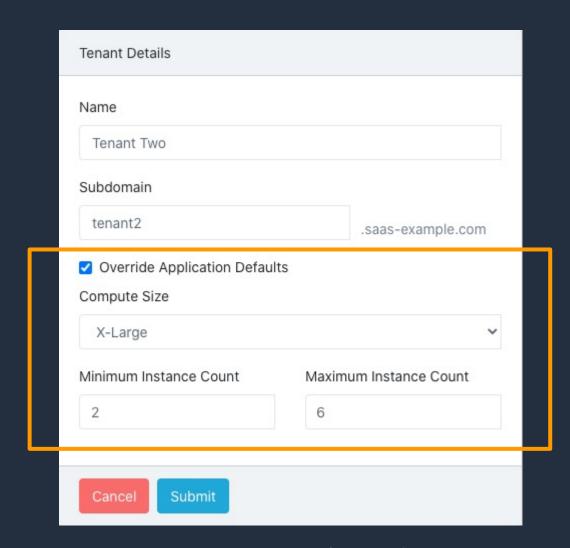
## テナントのオンボーディング



## テナントごとにチューニング可能



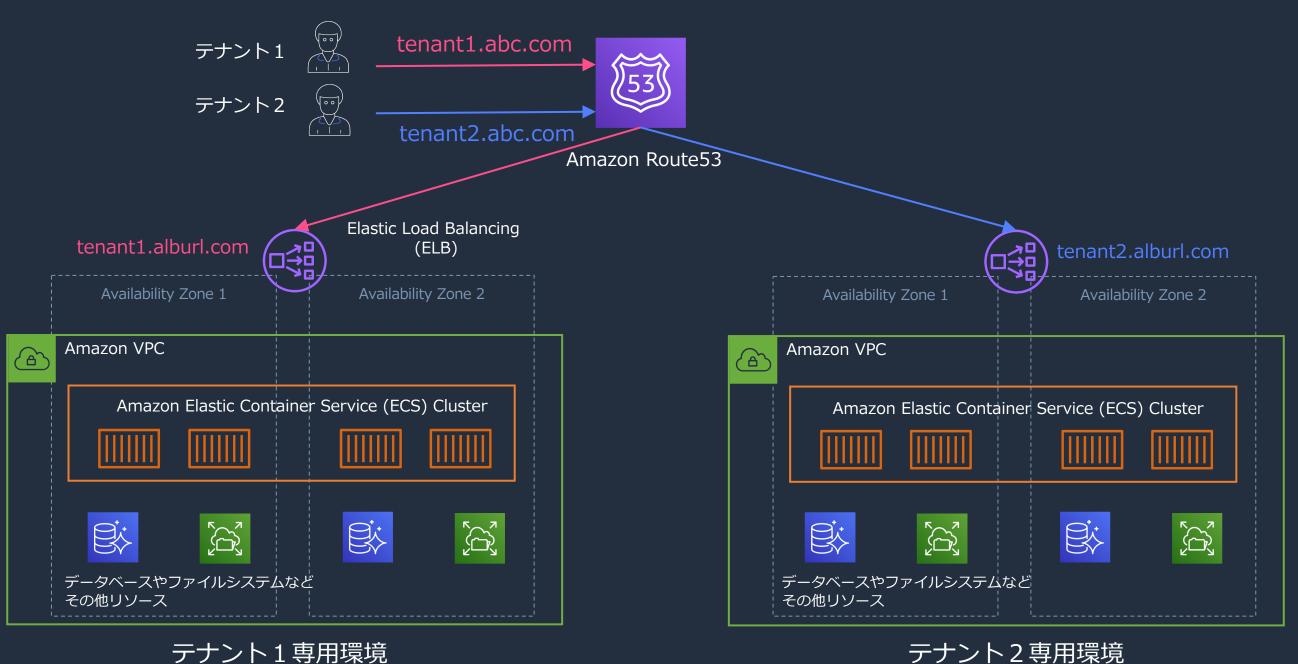
ex. 小規模スタートアップの顧客



ex. 大規模エンタープライズの顧客



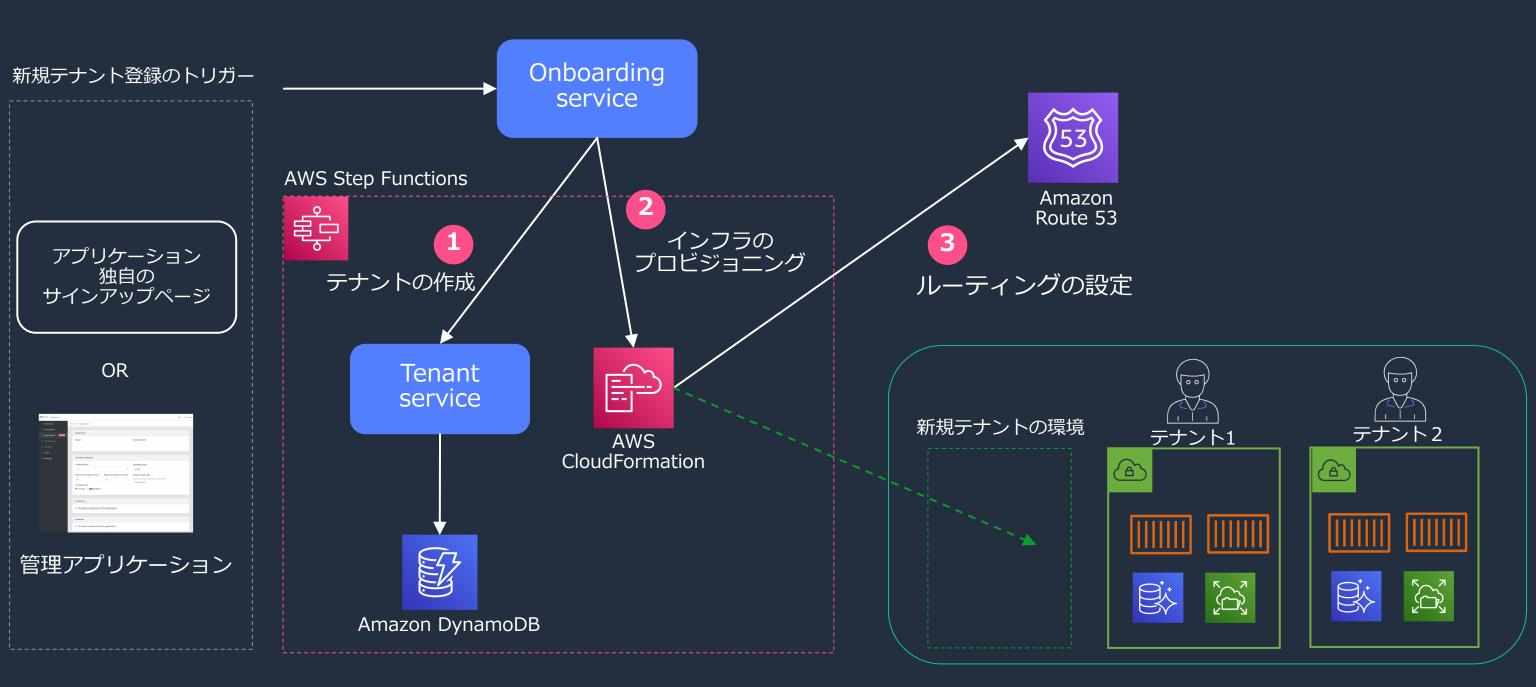
#### テナント環境のアーキテクチャ構成



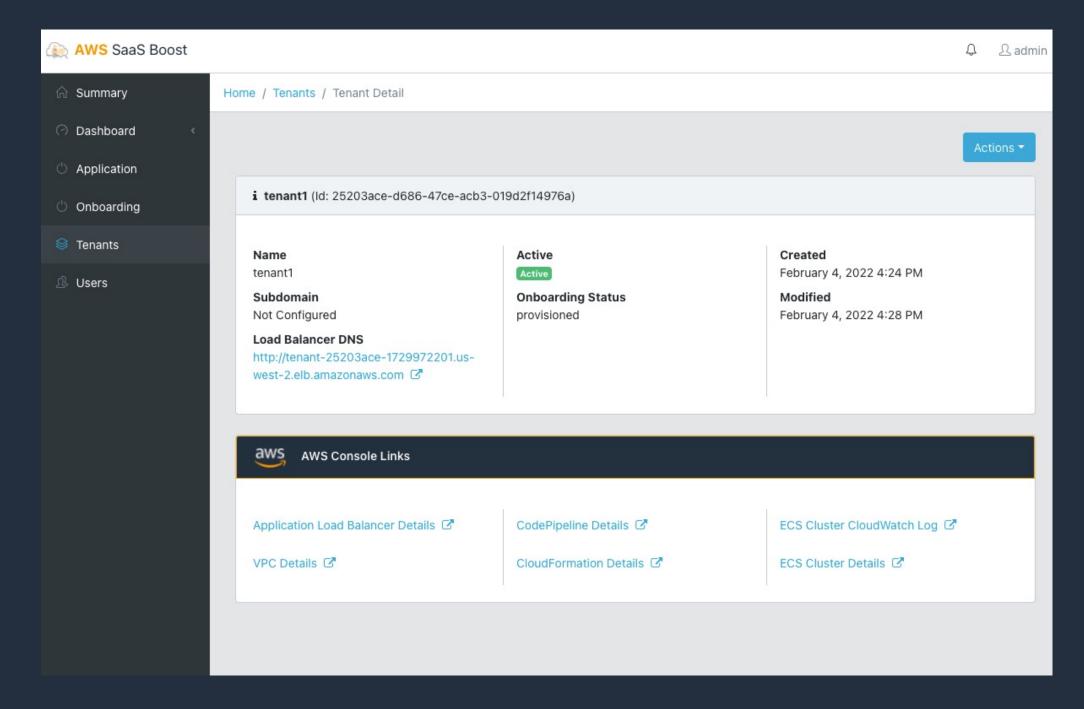
テナント2専用環境



## オンボーディング機能の裏側



## テナント管理

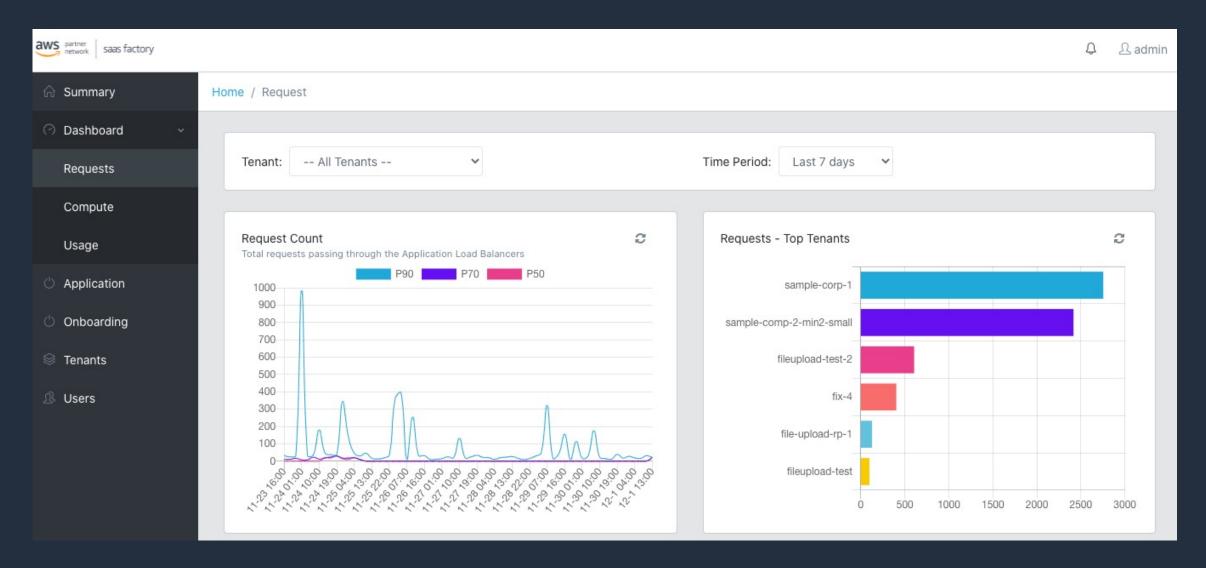


# その他の機能



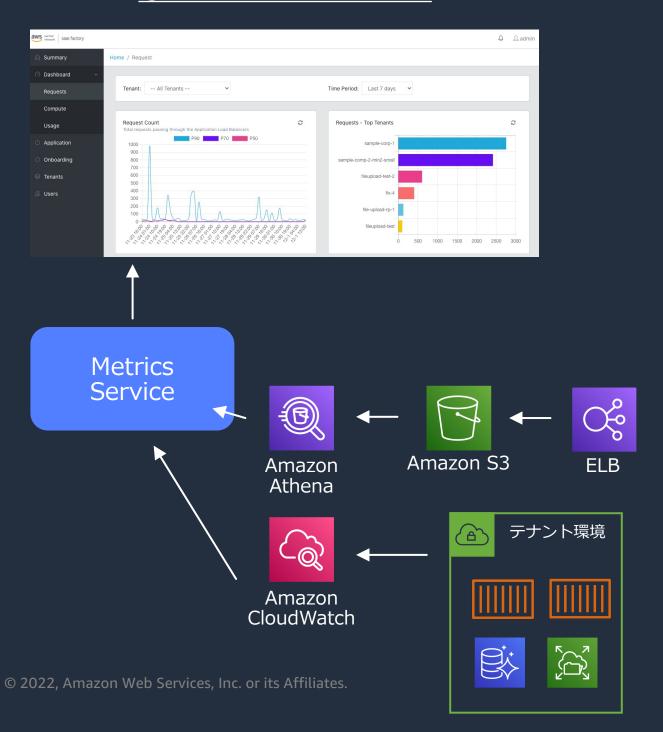
#### ビルトインのメトリクス収集/可視化

- リクエスト数、CPU/メモリ使用率、機能ごとの利用傾向をデフォルトで取得
- 特定のテナントにドリルダウンした分析も可能

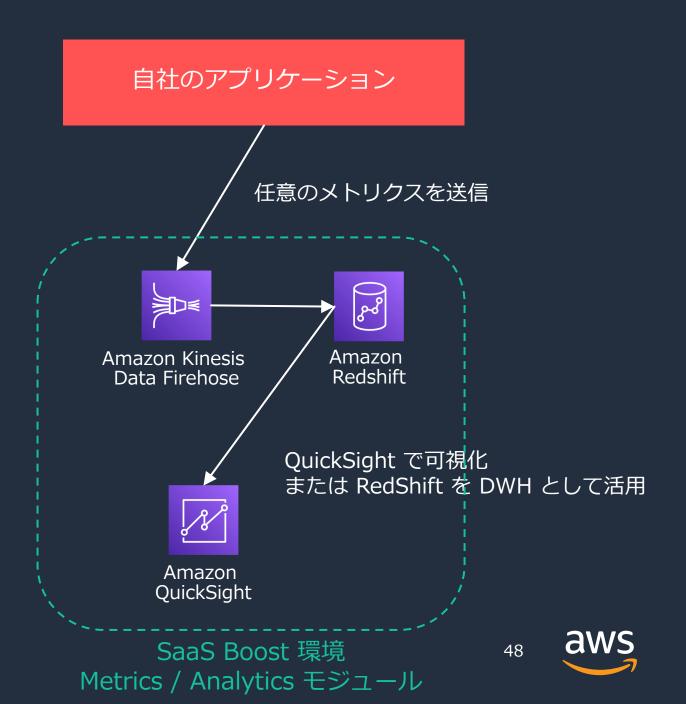


# メトリクス/分析モジュール

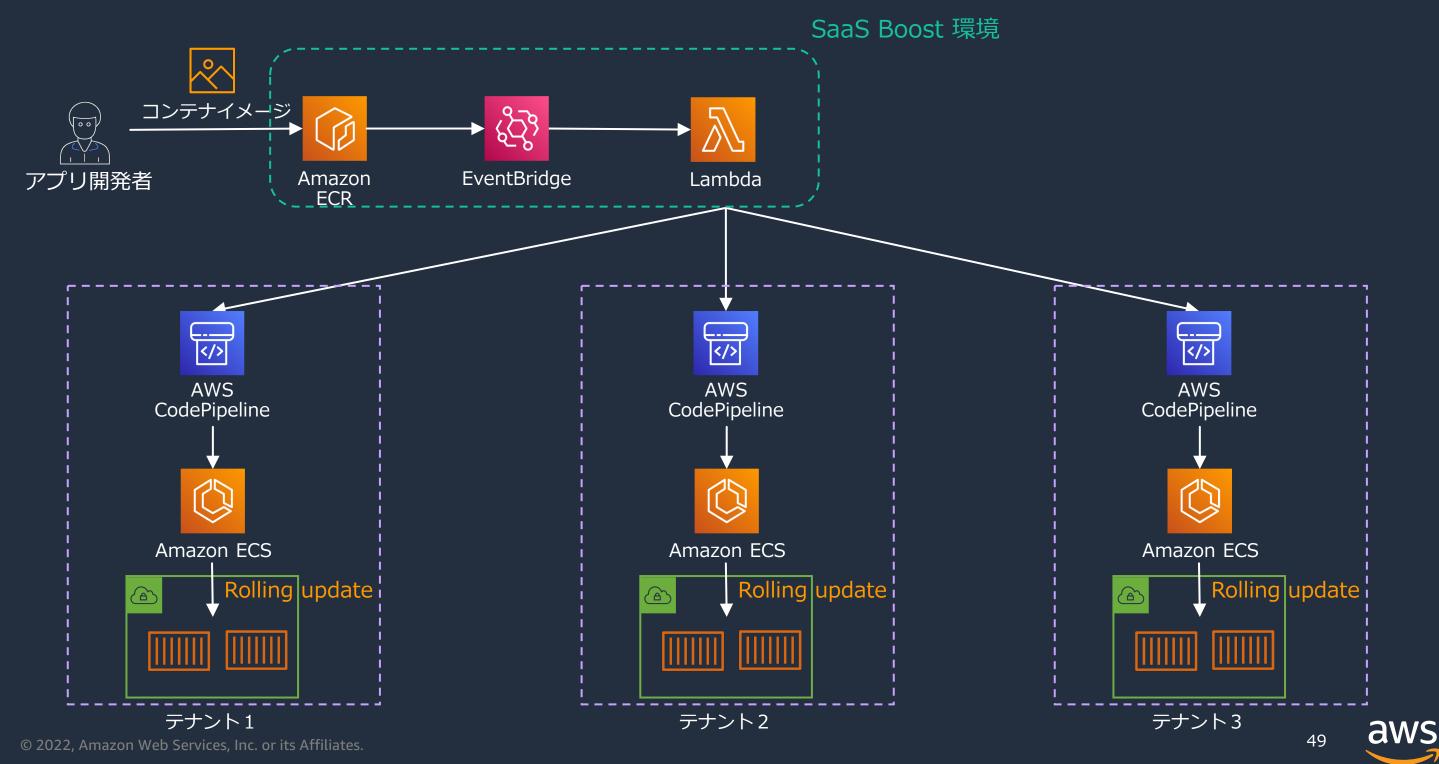
#### ①ビルトインの分析機能

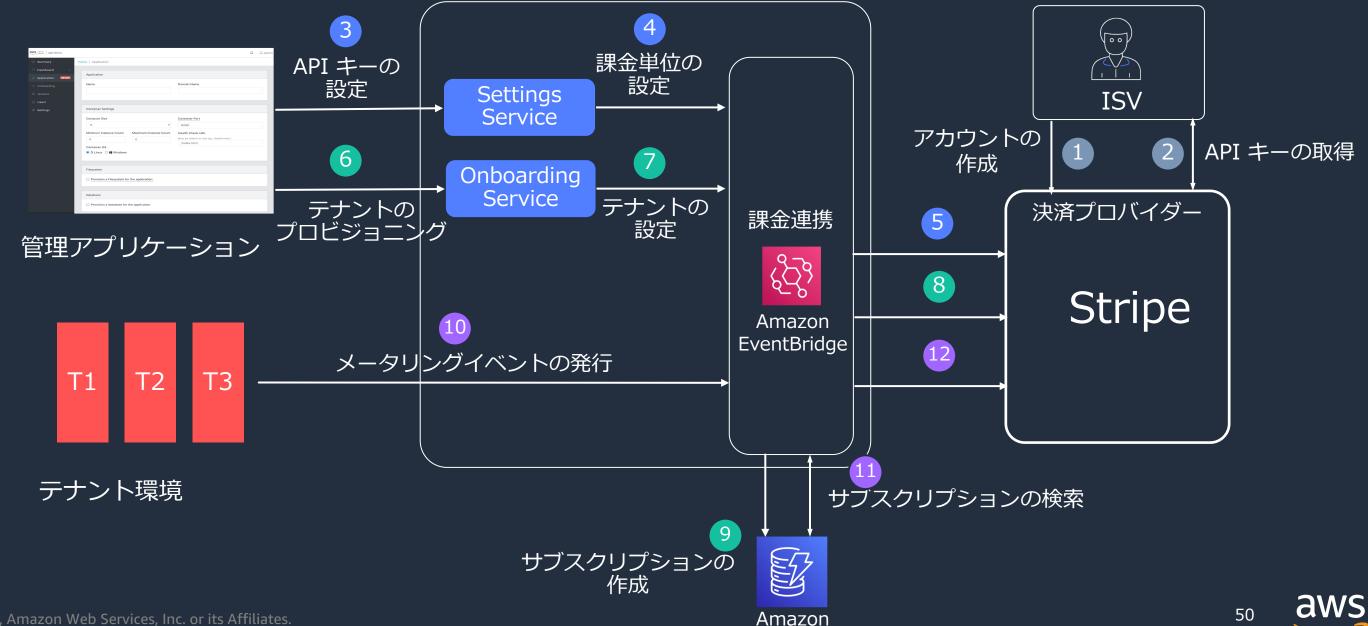


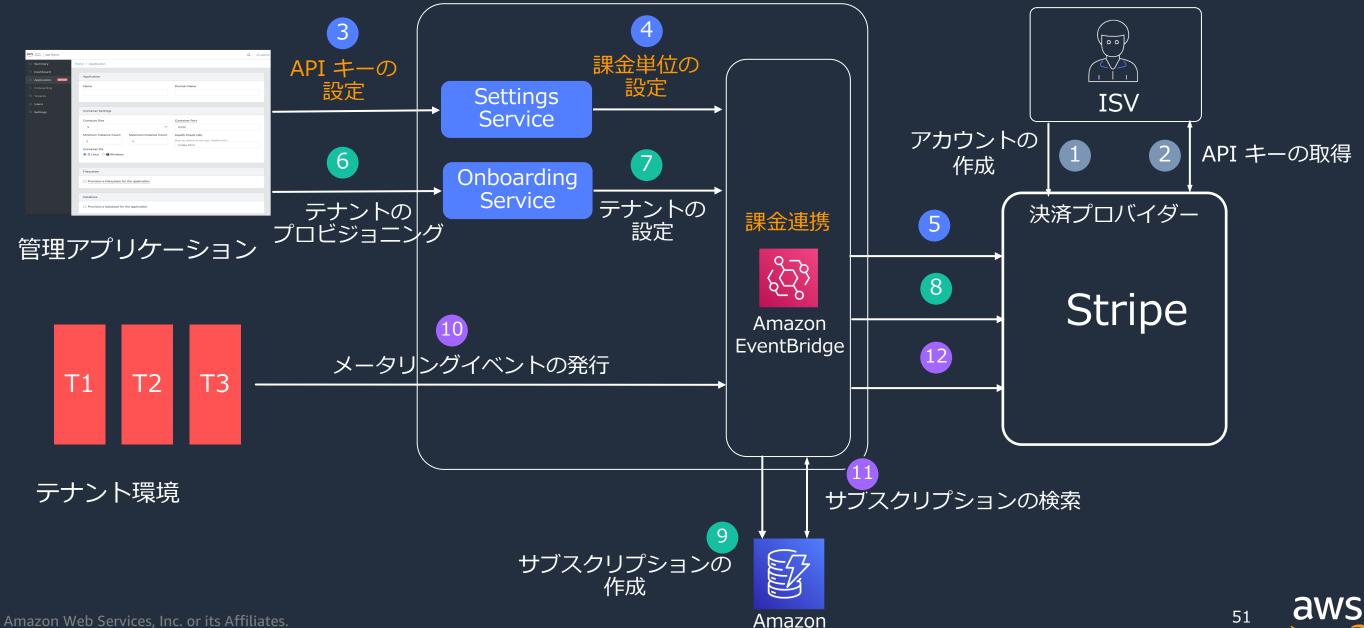
#### ②カスタム分析機能



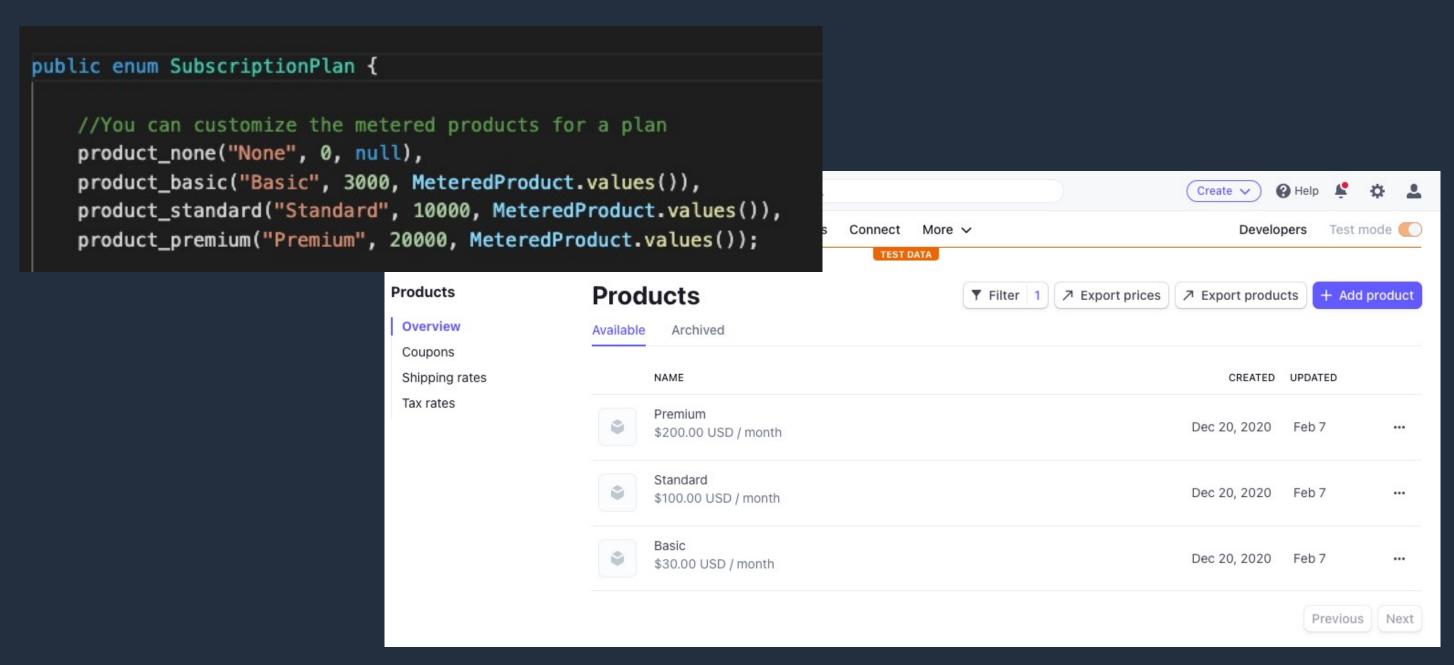
## 新しいバージョンのデプロイ

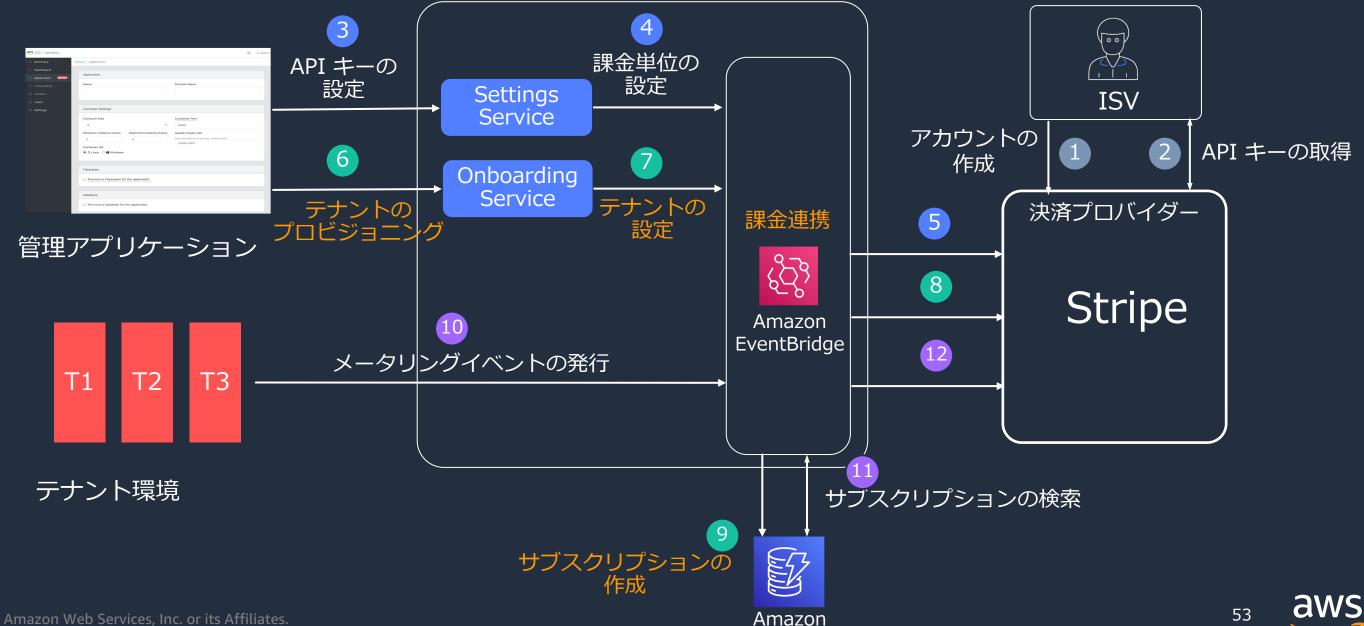




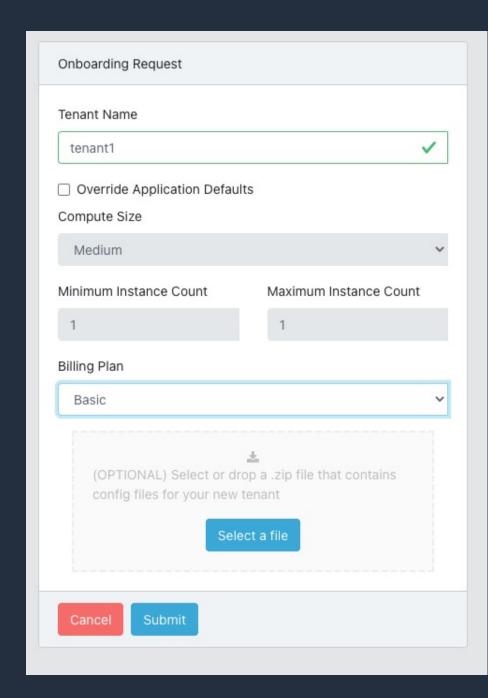


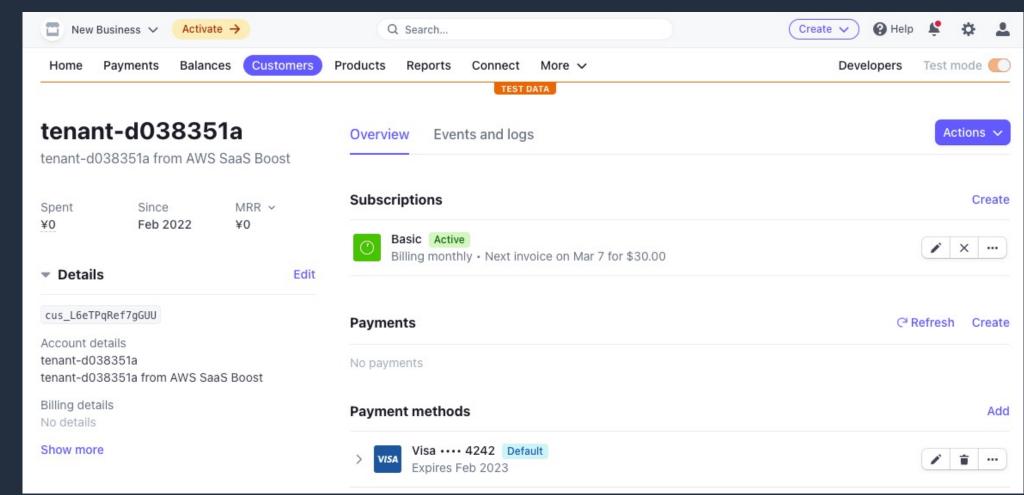
#### Product の登録

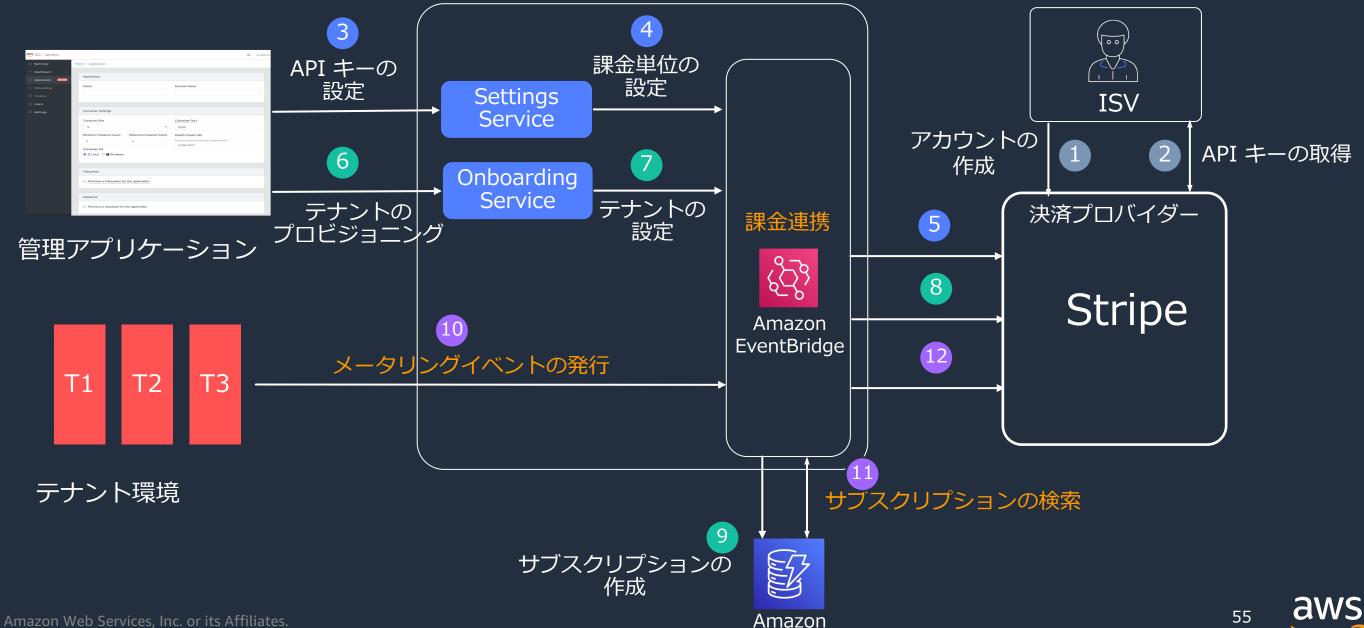




## Customer / Subscription の登録







#### まとめ

- AWS SaaS Boost はすぐに利用可能なリファレンス実装
- 主に迅速な SaaS 移行を進める手段として活用できる
- オープンソースコミュニティ主導の開発
- ベースラインを自社の要件に応じてカスタマイズして使用する
- サイロモデル (シングルテナント構成) のみをサポート (2022/2/8 時点)
- 単一コンテナのアプリケーションのみをサポート (2022/2/8 時点)
- どのように SaaS 移行を進めていくのか計画を立てることが重要。 事業のステージやユースケースに合わせて、システム構成の進化を させていく必要がある。SaaS Boost はその一つの手段。



#### 皆様へのお願い

○ すぐに使えるのでぜひ一度試してみてください!

○ Issue, Pull request, その他フィードバックお待ちしています

○ 本番利用を考えているというお客様はぜひ担当の AWS の者にご相談ください

# ご視聴ありがとうございました

